

令和8年度先進健康科学研究科（一般入試・社会人特別入試）における出題意図等について
（医科学コース）

科目：小論文

1. 出題意図

問1

医科学、医療にかかわる専門的な問題意識と専門性を確認する意図で出題を行った。今回は特にがんのリハビリテーションにかかわる医学的知識と対処に関する専門性を問うた。

問2

現場経験から得た視点と、アカデミックな探究心・問題意識を結び付ける力を評価する。

問3

近年、理学療法士を含むリハビリテーション従事者は急増しているにも関わらず、認定理学療法士や専門理学療法士を目指す一部の従事者以外は技術や知識を向上する意欲が低く、全体的な質の低下が懸念されている。

その中でも、本学大学院を受験するような志願者は研究活動を通じて質の高いリハビリテーションを提供するような志を持った理学療法士であることが予測される。今後のリハビリテーション分野の発展において、臨床研究を行う意義と課題を明確に示すことは、これからの大学院での研究活動でも非常に重要な役割を担うことから出題した。

問4

本設問は、医学データという現代医療における重要なテーマを通じて、受験者が「自ら課題を発見し、科学的かつ創造的に解決を図る人材」であるかどうかを判定することを目的としている。

まず、医学データの現状について、事実に基づいた正確な理解が求められる。電子カルテの普及状況、データの標準化の進捗、個人情報保護の制度など、具体的な事例や統計を踏まえて、現代医療におけるデータの位置づけを明確にする力が問われている。

次に、医学データの利活用における本質的な課題を抽出し、分析する力が求められる。単なる技術的な問題にとどまらず、倫理的・社会的・制度的な側面を含めて、複雑な構造を読み解く力が試される。ここでは、科学的な視点とともに、医療の現場や患者の立場への理解も重要となる。

最後に、現状と課題を踏まえたうえで、創造的かつ実現可能な解決策を提示することが求められる。技術革新、制度改革、教育・啓発活動など、多角的な視点からの提案が期待されており、受験者の科学的思考力と社会的構想力が評価される。

この課題は、単なる知識の再生ではなく、課題発見・本質理解・創造的解決という一連の思考プロセスを通じて、受験者の科学的資質と社会的責任感を総合的に評価することを目的としている。医学データという具体的かつ現代的なテーマを通じて、将来の医療や社会に貢献できる人材かどうかを見極める設問である。